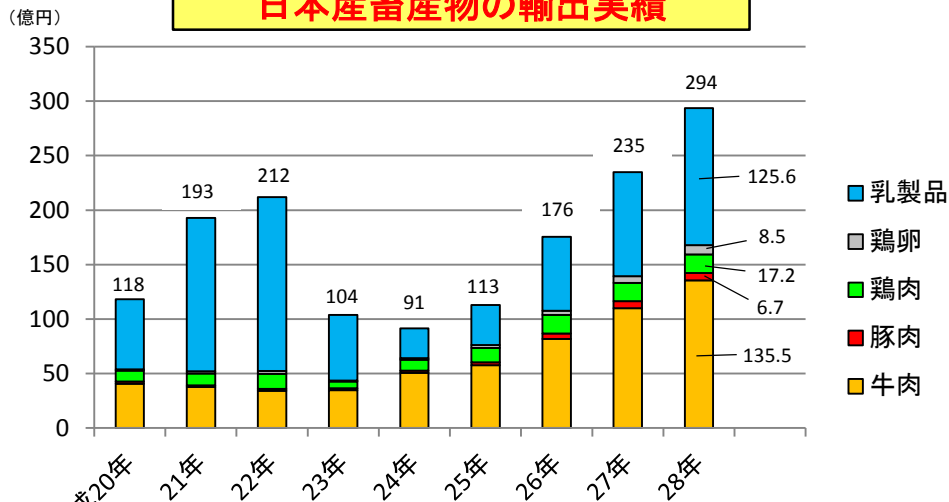


【輸出関係】

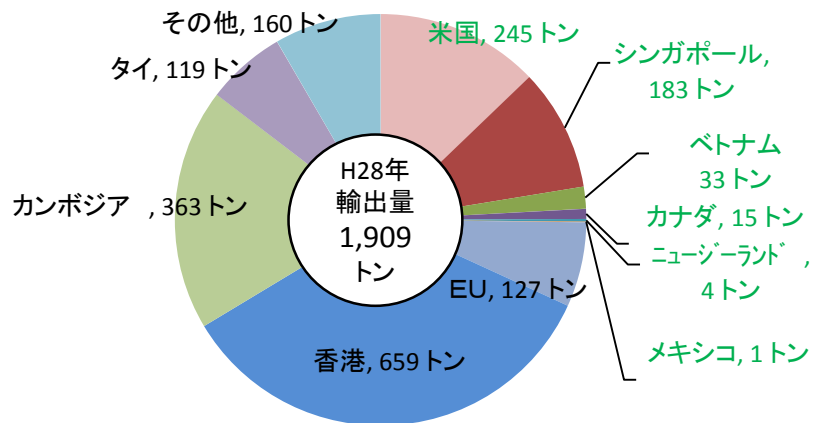
畜産物の輸出について

- 平成28年の畜産物の輸出実績は合計で294億円。うち牛肉が最大の136億円となっており、全体の約46%を占める。
- 農林水産物の輸出目標(平成31年:1兆円)の達成に向け、本年5月にとりまとめられた「農林水産業の輸出力強化戦略」に基づき、関係者が一体となって輸出拡大に取り組む

日本産畜産物の輸出実績



〈参考:日本産牛肉の国別輸出実績〉



平成31年輸出目標

牛肉	: 250億円(4,000トン相当)
豚肉	: 12億円(1,000トン相当)
鶏肉	: 35億円(14,000トン相当)
鶏卵	: 26億円(10,000トン相当)
乳製品	: 140億円

畜産物の輸出拡大に向けた取組のポイント

1. 市場開拓・需要創出

- 統一マークの活用等により、日本ブランドを前面に立てた販売戦略
- 日本産畜産物の強みを活かす調理技術等の普及
〔すき焼き等日本の食文化とセットでバラやモモなどの多様な部位を売り込む。〕

2. 供給力の強化

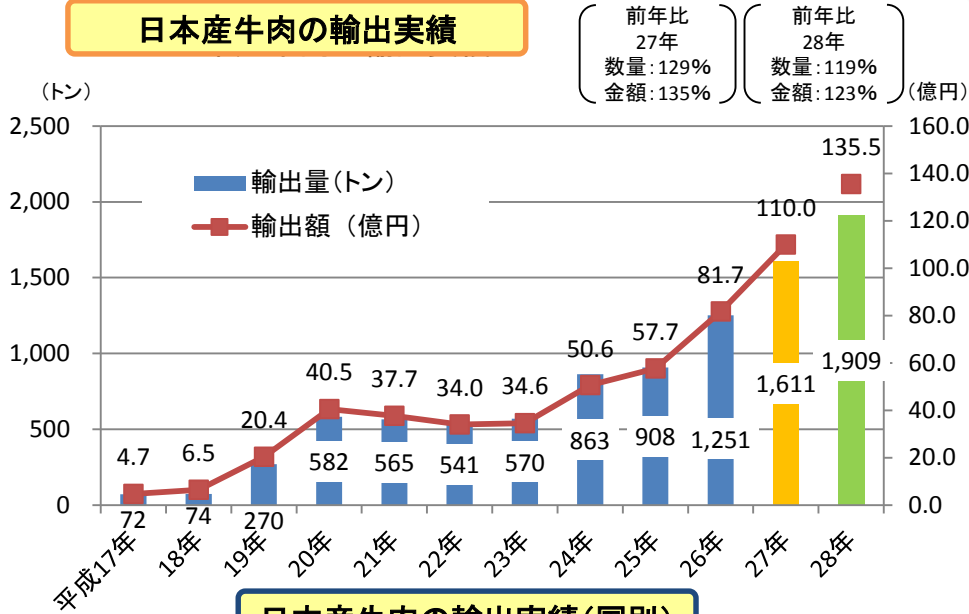
- 輸出先国の衛生条件を満たす食肉処理施設の整備を促進
〔先日決定した「農林水産物輸出インフラプログラム」において、当面の具体的な整備案件を輸出拠点として提示。〕

3. 輸出先国・地域の多角化

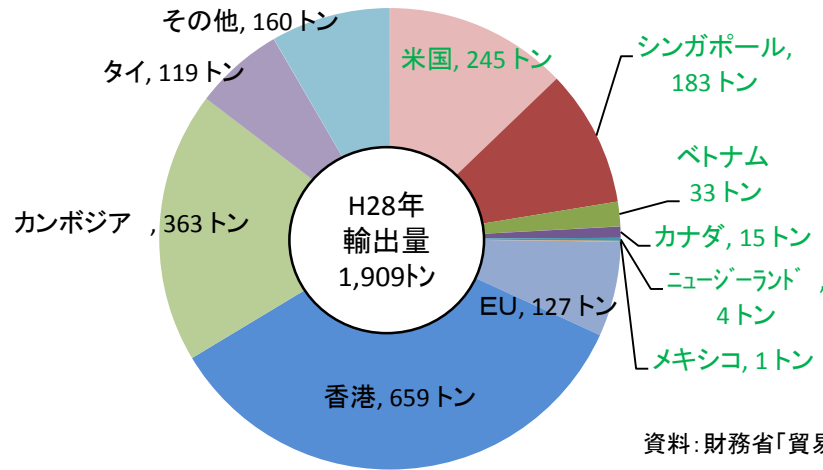
- 動物検疫協議等の戦略的展開

牛肉の輸出について

日本産牛肉の輸出実績



日本産牛肉の輸出実績(国別)



資料:財務省「貿易統計」

平成31年輸出目標 250億円(4,000トン相当)

○ 国別戦略重点国

【輸出可能国】

香港、シンガポール、インドネシア、タイ、ベトナム、UAE、カタール、米国、カナダ、EU、ロシア

【動物検疫協議中の国】

台湾、韓国、中国、マレーシア、サウジアラビア

輸出国・地域別の施設認定状況(2017年1月現在)

	米国	カナダ	メキシコ	EU	ロシア等	NZ	香港	UAE	カタール	バーレーン	シンガポール	フィリピン	マカオ	タイ	ベトナム	ミャンマー	インドネシア
施設数	10	8	8	4	2	10	10	4	3	2	12	7	58	53	59	43	1

出典:厚生労働省HP

和牛の強みを活かす売り方、食べ方を海外に広め、輸出拡大につなげる

<今後の取組>

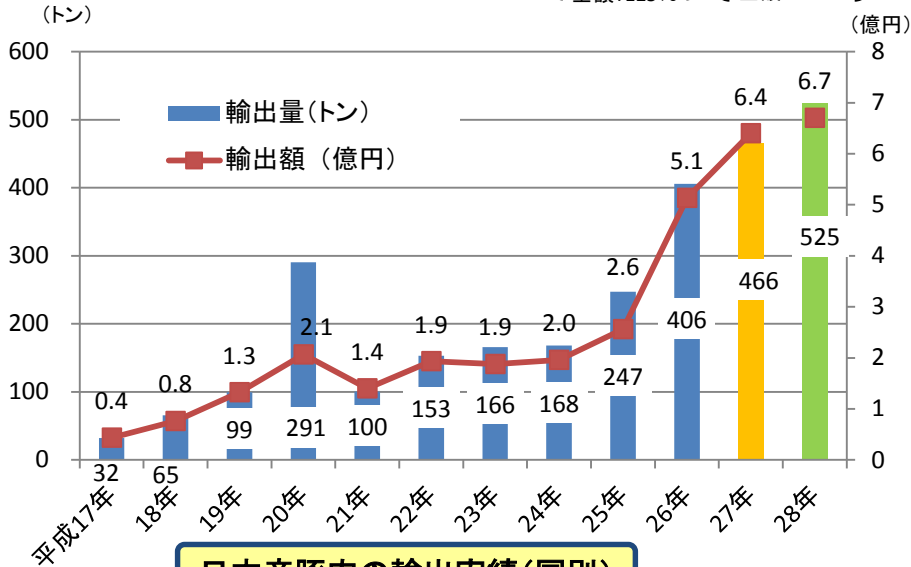
- 高い品質(味・見た目)を活かした販売促進(平成32年度までに輸出戦略上の全ての重点国・地域で和牛統一マークの商標登録を目指す)
- 格付け情報、生産履歴情報の提供による和牛の付加価値化の後押し(平成29年度以降、7か国語で提供)
- 新たな肉料理市場の創出等を追求(平成28年度以降3年間で計8か国50人のシェフを日本へ招へい)
- 和牛生産量の維持・拡大(平成37年度までに和牛の飼養頭数を186万頭まで増頭)
- 効率的な流通対策の確立(平成32年までに米国・EUへの輸出に対応可能な施設の処理能力を3割以上拡大)

豚肉の輸出について

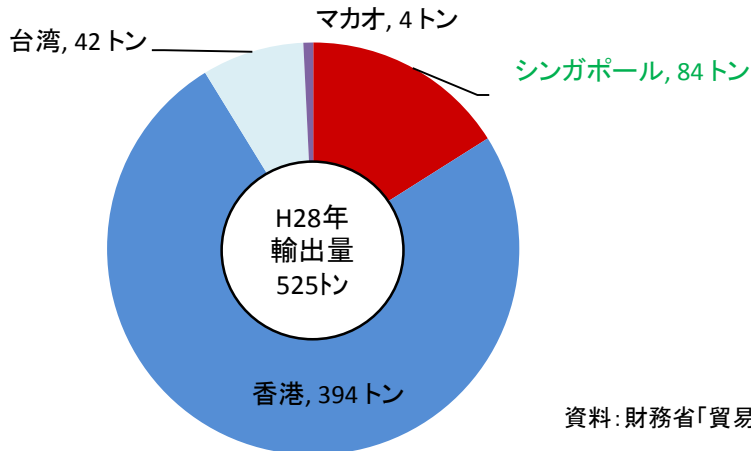
日本産豚肉の輸出実績

前年比
27年
数量:115%
金額:125%

前年比
28年
数量:112%
金額:104%



日本産豚肉の輸出実績(国別)



資料:財務省「貿易統計」

平成31年輸出目標 12億円(1,000トン相当)

○ 国別戦略重点国

【輸出可能国】

香港、台湾、シンガポール

【動物検疫協議中の国】

中国、タイ

輸出国・地域別の施設認定状況 (2016年9月現在)

	香港	台湾	シンガポール	ベトナム
施設数	100	13	4	34

出典:厚生労働省HP

日本ファンに日本の食文化と併せて売り込むことで、日本産豚肉ファンの裾野を広げる

<今後の取組>

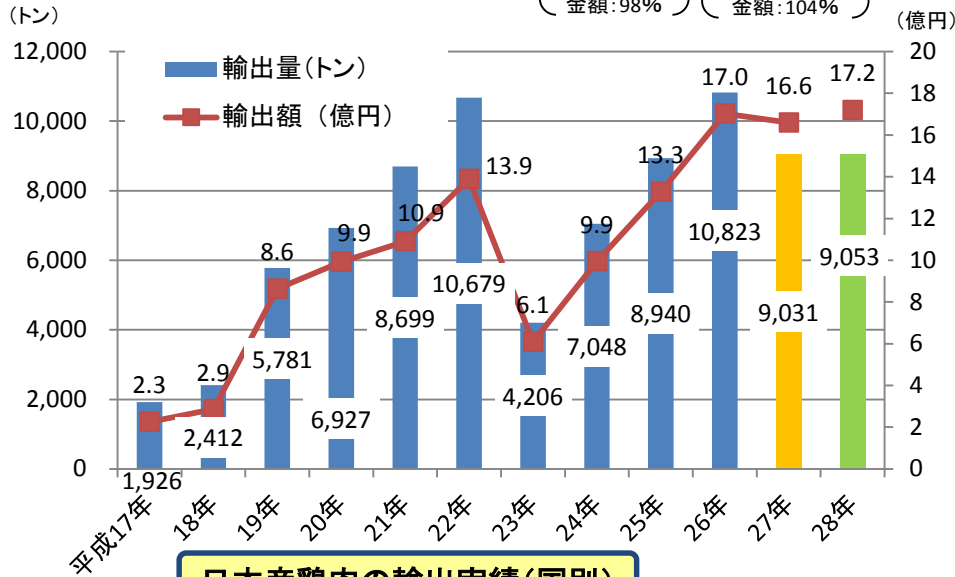
- 「日本ブランド」による販売促進(平成32年度までに輸出戦略上の全ての重点国・地域で豚統一マークの商標登録を目指す、平成28年度以降3年間で計4か国20人のシェフ等を日本へ招へい)
- 国内生産基盤の強化(豚の育種改良を進めること等による母豚一頭当たりの子豚生産頭数の増加等を通じて、生産コストを低減)
- 効率的な流通体制の確立(食肉処理施設の再編整備を支援)

豚統一マーク



鶏肉の輸出について

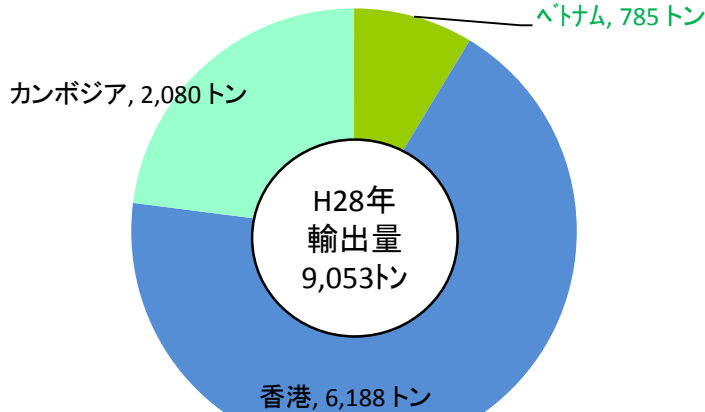
日本産鶏肉の輸出実績



前年比
27年
数量:83%
金額:98%

前年比
28年
数量:100%
金額:104%

日本産鶏肉の輸出実績(国別)



資料:財務省「貿易統計」

平成31年輸出目標 35億円(14,000トン相当)

○ 国別戦略重点国

【輸出可能国】

香港

【動物検疫協議中の国】

シンガポール

輸出国・地域別の施設認定状況 (2016年9月現在)

	香港	ベトナム
施設数	72	76

資料:厚生労働省HP

**日本ファンに日本の食文化と併せて売り込むことで、
日本産鶏肉ファンの裾野を広げる**

<今後の取組>

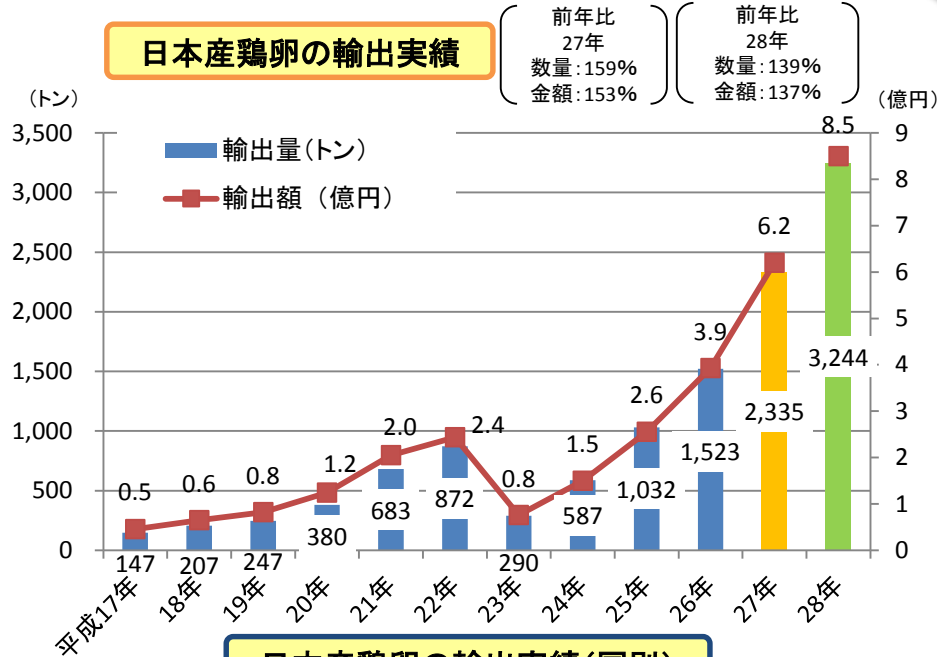
- 「日本ブランド」による販売促進(平成32年度までに輸出戦略上の全ての重点国・地域で鶏肉統一マークの商標登録を目指す)
- 差別化可能な鶏の国内生産基盤の強化(主要国産種鶏の育種改良を継続的に実施)
- 動物検疫協議等の戦略的展開(平成32年度までに輸出戦略上の全ての重点国・地域への輸出解禁を目指す)

鶏肉統一マーク



鶏卵の輸出について

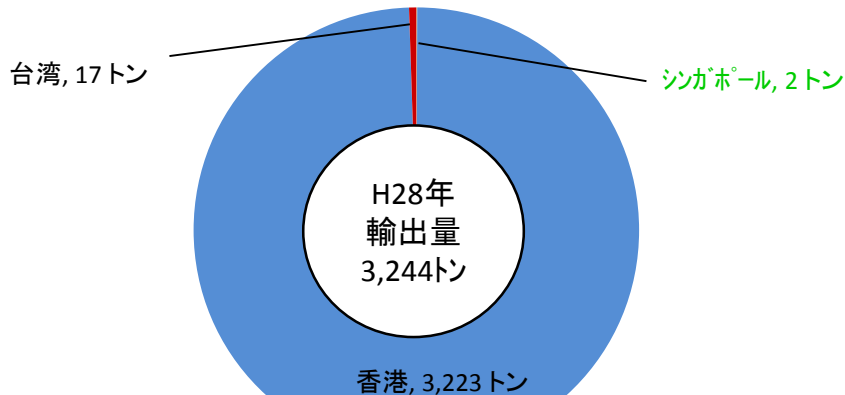
日本産鶏卵の輸出実績



前年比
27年
数量:159%
金額:153%

前年比
28年
数量:139%
金額:137%

日本産鶏卵の輸出実績(国別)



資料:財務省「貿易統計」

平成31年輸出目標 26億円(10,000トン相当)

○ 国別戦略重点国

【輸出可能国】

香港、シンガポール

【動物検疫協議中の国】

韓国

輸出国・地域別の施設等の認定状況 (2017年1月現在)

	香港	シンガポール
施設数	125	5

出典:厚生労働省HP

日本のたまごの強みを活かす食べ方を海外に広め、輸出拡大につなげる

<今後の取組>

- 「日本ブランド」による販売促進(平成32年度までに輸出戦略上の全ての重点国・地域で鶏卵統一マークの商標登録を目指す、平成28年度以降3年間で計3か国15人のシェフ等を日本へ招へい)
- 効率的な生産・流通体制の確立(平成28年度以降、半熟卵を船便で輸出するための技術を開発)
- 動物検疫協議等の戦略的展開(平成32年度までに輸出戦略上の全ての重点国・地域への輸出解禁を目指す)

鶏卵統一マーク

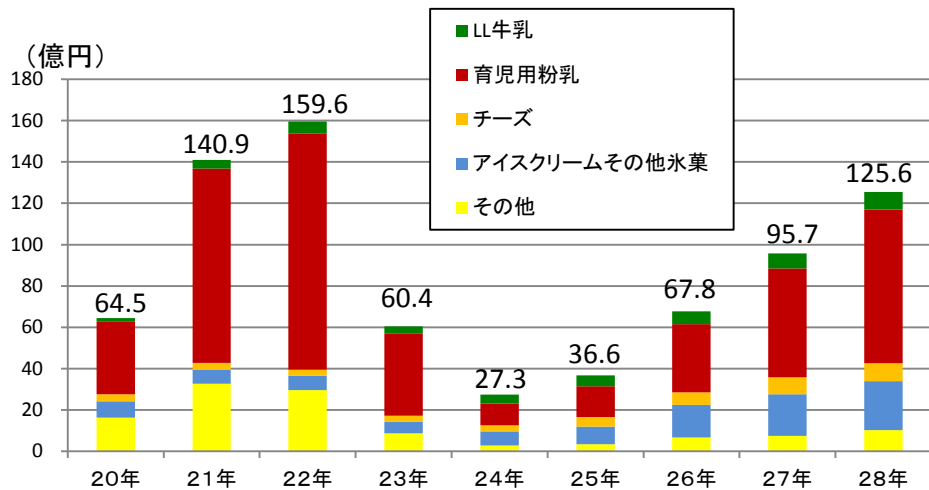


牛乳・乳製品の輸出について

日本産牛乳・乳製品の輸出実績

前年比
27年
141%

前年同期比
28年(1-12月)
131.1%



資料:財務省「貿易統計」

平成31年輸出目標 140億円

○国別戦略重点国

香港、台湾、中国、シンガポール、マレーシア、ベトナム

強みを活かした輸出戦略・体制の確立や技術的課題の解決などにより、アジア諸国・地域を中心に日本産牛乳乳製品の浸透と輸出拡大を目指す

<今後の取組>

- 強みを活かした輸出戦略・体制の確立(平成30年度までに全ての輸出重点国・地域において市場調査を実施し、現地の日系小売業者等と連携した円滑な市場開拓等を支援)
- 技術的課題の解決(牛乳の賞味期限を延長し、新鮮さを活かした輸出が可能な体制の整備等)
- 生乳生産量の維持・拡大(平成37年度に生乳生産量750トン)

主要品目の国別輸出額(平成28年)

資料:財務省「貿易統計」

